

令和4年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

令和4年度の幼稚園評価は「自信をもって勧められる園づくりを目指して」をテーマとし、今年度は保護者アンケートを実施いたしました。

例年は教職員自己評価のみでしたが、保護者の目にはどのような幼稚園として映っているのか、また保護者の立場からどのような意見や要望があるのかを踏まえ、教職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営を振り返り、現状を見つめ直しました。そして、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受け止め、更なる「教育活動の充実・教育環境の整備・教職員の資質向上」に努めてまいります。

I. 教育目標

当園は、真宗高田派の仏教幼稚園として宗祖 親鸞聖人の御教えを受け継ぎ、「佛の慈悲と智慧の光に照らされて“ほとけの子”として育ち合う」ことを建学の精神とし、命の尊さに気づき、思いやりと感謝の気持ちを持てる子として成長できるよう、【はっきりと挨拶ができる子・自分の気持ちを相手に伝えられる子・ゆたかな情操をもった子・だれとでも仲良く遊べる子・感謝の気持ちを忘れない子・たくましい体力をもった子】を保育目標として掲げ、園児一人ひとりと丁寧に向き合いながら日々の保育に取り組んでいます。子どもは集団生活を通して「ありがとう」「ごめんなさい」の心が育まれ、お互いに受け止め合い、認め合う中で、のびのびと「自分らしさ」を発揮できるようになります。園生活の中で好きなことや得意なことを発見し、「幼稚園ってたのしい!」「明日も幼稚園にいきたい!」と、子どもにとって「安心できる場所」であり続けることを大切にしています。

II. 今年度の重点目標

自信をもって勧められる園づくりを目指して

III. 評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指して	1 園の安定運営を目指し、園児獲得のための広報活動に努めることができたか	【保護者アンケートの結果】当園を知った理由として「ホームページ」「口コミ」「通園バス」との回答が多かった。また、入園を決めた理由は「保育内容」「延長保育など保育サービス」「自宅から近い」との回答が多かった。 【自己評価】園の保護者はスマートフォンから情報を得る世代が多いので、特にWEB対策に力を入れた。ホームページ等を通して園の方針、保育の様子や子どもの姿を積極的に発信することができた。また、何よりも保護者に満足してもらえるよう、保育の質向上に努めた。さらに、通園バスで新興住宅地付近を運行し、周知することに力を入れた。
	2 コロナウィルス感染症によりコミュニケーションが図りにくい中でも、保護者に対する職員の対応は信頼・安心できるものであったか	【保護者アンケートの結果】「満足86%」「やや満足14%」の回答があった。「不満」「やや不満」「どちらでもない」の回答はなかった。 【自己評価】コロナウィルス感染症により行動が制限されて以降、参観や懇談の機会が減り、保護者に不安な思いをさせることが多かったと感じる。しかし、そういう状況下だからこそ、様々な手段で可能な限り積極的にコミュニケーションを取り、保護者に信頼・安心してもらえるよう努めることができた。また改めて、私たちの職務は保育の質のみではなく、日々の何気ないコミュニケーションの積み重ねが大切であることを知った。

令和4年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

自己評価項目		取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指して	3 保育について、保護者の立場から見て満足の内容であったか	【保護者アンケートの結果】「満足83%」「やや満足17%」の回答があった。「不満」「やや不満」「どちらでもない」の回答はなかった。 【自己評価】近年は、私学のイメージの一つである「カリキュラムありき」ではない柔軟な保育を目指してきた。当園の軸（建学の精神）は貫きつつ、時代背景や家庭環境、子どもの姿を見極め、園児一人ひとりに対し適切な保育を行うため、職員は研修での学びや実践での評価・反省を繰り返して、意識・技術ともにアップデートを行い研鑽を積み重ねた。結果「カリキュラムありき」ではなく、今、目の前にいる子どもたちに合った形で保育を行うことができた。
	4 子どもの姿から、当園の保育について保護者は満足できたか	【保護者アンケートの結果】「満足83%」「やや満足17%」の回答があった。「不満」「やや不満」「どちらでもない」の回答はなかった。 【自己評価】幼児教育の原点に戻り、幼児期は「何かができるようになる」「技術を習得する」以前に、まず「あそびを通して様々な世界と出会う」ことが重要であると考え、「大人の求める子どもの姿」を追求のではなく、園児一人ひとりを丁寧に見守り、理解し、それぞれの子どもに何が必要かを見極めることを最優先に保育を進めることができた。結果、子どもたちは「やらされている」のではなく、主体的に園生活を送ることができた。上記にもあるように、自らが園生活の中で好きなことや得意なことを発見し、「幼稚園ってたのしい!」「明日も幼稚園に行きたい!」と生き生きしている子どもの姿を保護者に見てもらうことで、満足してもらえるよう努めることができた。
	5 給食の献立について、保護者から見て満足の内容であったか	【保護者アンケートの結果】「満足44%」「やや満足40%」「やや不満8%」「どちらでもない8%」の回答があった。「不満」の回答はなかった。 【自己評価】昨今、保育園や認定こども園に入園を希望する保護者が増えている中で、「自園調理」を望む声が多いように思う。調理場がないため給食センターによる給食を提供しているが、調理してから搬入、昼食までのタイムラグがあり、食べる頃には冷めているなどのデメリットがある。しかし、質・内容ともに「自園調理」に劣らない給食になるよう定期的にセンターと協議をしている。園児が「おいしいと感じる」「食べることが喜びである」「食べたことのない食材と出会い、食の幅が広がる」ことを目標に、現状に満足せず献立等の改善に努めることができたと思う。
	6 感染症対策について、保護者から見て納得できる内容であったか	【保護者アンケートの結果】「満足64%」「やや満足26%」「やや不満4%」「どちらでもない6%」の回答があった。「不満」の回答はなかった。 【自己評価】コロナウイルス感染症発生当初より、園児へのマスク着用は保護者の任意、もしくは園児の体調によつてとし（職員・保護者は着用依頼）、体調不良時の早期対応、また部屋の換気に軸を置き対策を進めた。結果、大きく蔓延することはなかったが、一定数の感染はあった。また、その他のウイルスに対しても基本的には同様の対策を進めたが、時期よって感染症の蔓延があり、園児によっては登園→罹患→欠席を繰り返す事例など、保護者には不安な思いをさせたと感じている。取り組みとしては、現状に満足することなく、園医等に相談し、改善を積み重ねることができた。
	7 保護者から当園への意見に対し、真摯に耳を傾け、必要に応じて改善に取り組むことができたか	【保護者アンケートの結果】アンケート項目にはなかったため回答なし 【自己評価】保護者の意見に対してはいつも真摯に耳を傾け、必要に応じて速やかに改善することができたと思う。また、どの意見に対しても必ずしも改善という形で応えるのではなく、当園の思いや、なぜそういった取り組みをするのか、なぜそういった方針なのかという理由を丁寧に時間をかけて伝え理解してもらうことにより、保護者と一緒に幼稚園を作っていくというスタイルを大切にすることができたと思う。

IV. 園の評価

A : できた

B : おおむねできた

C : できなかった

B	<p>学校評価の主旨をよく理解し、園長を中心に全職員が一丸となって主体的かつ積極的に取り組むことができた。また、個人で取り組むのではなく、職員全員で共有・実践することによりチームとして取り組むことができた。その結果、各項目についておおむね達成できたと評価している。</p> <p>今後は、現状に満足せず、達成できなかった点についての問題点を掘り起こし、次年度に向けて課題を持って引き続き取り組みを行い、さらなる高みを目指す。</p>
---	--

令和4年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

V. 今後取り組むべき課題

自信をもって勧められる園づくりを目指して	1	園の安定運営を目指し、園児獲得のための広報活動に努めることができたか	アンケートの結果から、園を周知するにはWEB対策と保護者による口コミが特に重要な要素であることが分かった。「幼稚園は母親が就労していない子を預かる」「満三歳児保育は三歳の誕生日を過ぎないと利用できない」「幼稚園での預かり保育は費用の免除が受けられない」等、幼稚園の情報が利用者の中でアップデートされていないことが多々あるので、今後もホームページの更新とニーズに合った的確な情報発信に努めたい。また、保護者には当園のファンになってもらえるよう、軸（建学の精神）を持ちつつ時代に合った保育の進め方、保育内容の向上にも引き続き努めたい。
	2	コロナウィルス感染症によりコミュニケーションが図りにくい中でも、保護者に対する職員の対応は信頼・安心できるものであったか	来年度は「コロナ後の園運営」をどのように進めていくのかが鍵になる。可能な限りコロナ前の状況に戻し、保護者が園の中に入れるようにしたい。WEB等を積極的に活用し、日々の園生活の様子を発信し、安心や理解を得られるように引き続き進めていく。しかし、何より直に園児の姿を見てもらったり、直に職員と言葉を交わしたりすることによってこそより深い信頼関係を構築できると思う。今後も時代がどのような状況に変化してもコミュニケーションの積み重ねを大切にしていきたい。園児が安心して園に通うために、まず保護者が園を信頼し安心できることを強く意識した上で園運営に努めたい。
	3	保育について、保護者の立場から見て満足いく内容であったか	今後も一定のカリキュラムにとらわれず、何よりも園児一人ひとりの姿が大切にされる保育を追求・実践していきたい。現状に満足せず、反省と改善を繰り返し、質の向上に努めていきたい。そのために、職員自身が様々な経験を積み重ね、園児の姿に寄り添い柔軟な保育を行えるよう、研鑽を積み重ねたい。
	4	子どもの姿から、当園の保育について保護者は満足できたか	園児に対してつい「この時期までにこういうことができるようになって欲しい」と求めてしまいがちになるが、先を見越した保育ではなく、まずは目の前の子ども一人ひとりの育ちを深く理解し、成長に寄り添いながらじっくりと進めていきたい。子どもの原動力は「楽しい」と考えるので、今後も子どもたちが「楽しい」と思える保育を行っていきたい。
	5	給食の献立について、保護者から見て満足いく内容であったか	アンケートの結果から、「満足はしているが、より良い給食を求める」という保護者の声が見える。自園調理も考えてはいるが早くても数年後になるので、引き続きの検討・改善を積み重ね、より良い給食を提供できるようにしたい。園児は「おいしい」と食べているので、試食会の再開や、WEB等を通して子どもたちの昼食の様子を発信し、より理解を深められる取り組みも積極的に行っていきたい。何より、自園調理でないことをデメリットと考えるのではなく、自園の給食を自信を持って提供していきたい。
	6	感染症対策について、保護者から見て納得できる内容であったか	アンケートの結果から、「おおむね満足はしているが、きめ細かい感染対策を求める」という保護者の声が見える。園の感染対策や方針について、少し説明が不足していたのではないかなと思う。今後は「保健だより」を必要に応じて発行し、園医の見解や園の方針・取り組み・保護者に求めること等がより伝わるような取り組みを行いたい。また、感染対策、保健関連の研修にも積極的に参加し、情報を常にアップデートしていきたい。
	7	保護者から当園への意見に対し、真摯に耳を傾け、必要に応じて改善に取り組むことができたか	保育内容に関すること、給食に関すること、防災・防犯に関すること、土曜日保育に関すること他、多岐に渡り意見があった。聞いて終わりではなく、すぐに改善や実現できるか、慎重な検討が必要か、整理して取り組んでいく必要がある。園だけで取り組むのではなく、保護者や地域とも共有し、「皆でより良い幼稚園を作る」ための取り組みを行いたい。一つずつ実現していくことを目標に、まずは情報を共有することから始めたい。

VI. 学校関係者の評価

A : できた

B : おおむねできた

C : できなかった

B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ状況下、子どもたちに最善のことをしてくれたので感謝している ・園児のマスク着用を義務としなかったのは、将来を見据えた決断で良かったのでは ・行事等も工夫しながら進めてもらい、嬉しかった ・給食の試食会を再開してほしい。より保護者の理解が得られるのでは。また、自園調理ではなく配膳までに料理が冷めてしまうのであれば、ご飯だけでも保温の状態から配膳すれば良いと思う ・高田本山立として始まった境内にある幼稚園なので、今後も本山の理解を得ながら良好な関係を築いてほしい ・就労政策⇒保育園という時代だからこそ、「幼稚園に求められていることは何か？」というニーズ（幼児教育を求める声）を掘り下げてほしい ・アンケート実施は批判も受け止める覚悟が必要。その中でニーズを発掘できたのは素晴らしいことだと思う
---	---

VII. 財務状況・その他

公認会計士監査により、適正であると認められている。
